

第1回福知山市行政改革推進委員会 議事概要

日時: 令和8年5月20日(水)

午前10時15分から

場所: 市民交流プラザ 視聴覚室

■ 出席者

【委員(敬称略)】

井上 拓、井上 直樹、浦尾 たか子、岡 恵、細見 祐介、村尾 慎哉

※井上 拓委員、村尾委員はオンライン参加

【市】

大橋市長、市長公室長、企画政策監、総務部長、経営戦略課長、経営戦略課担当課長、財政課長

開会

市

まず、開会にあたり、市長 大橋 一夫より挨拶申し上げる。

市(市長)

本日は、令和8年度第1回行政改革推進委員会を開催したところ、オンラインを含め、大変御多忙の中、御出席いただき、感謝申し上げます。

本市では、まちづくり構想福知山に掲げる「市民が幸せを生きるまちへ」という将来像の実現に向け、限られた経営資源を最大限有効活用し、職員を含め全庁一丸となって行政改革に取り組んできました。これまで委員の皆様には、それぞれの専門的なお立場から、多岐にわたり御知見、御指導、御助言をいただき、心から厚く御礼申し上げます。

本年度は、まちづくり構想福知山が最終年度を迎えるとともに、行政改革大綱 2022-2026 も計画期間の最終年度となる。これら2つの取組は相互に密接に関係するものであり、まちづくり構想については別途審議会において取組を進めるが、それぞれの方向性や進捗を十分に連関させながら進めていく必要があると考えている。

次期行政改革大綱の策定に当たっては、これまでの取組の成果や課題を丁寧に検証し、次期行政改革大綱の策定にあたっては、委員の皆様には、忌憚のない御意見、御助言をお願いしたい。

また、本市では、令和6年に愛媛県が実施する「行革甲子園」において、公共施設マネジメントに関わる廃校利活用の取組がグランプリを受賞した。これは職員一人ひとりが課題意識を持ち、行政改革の一環として積み重ねてきた成果であり、こうした地道な取組を積み重ねることが極めて重要であると考えている。

一方で、AIをはじめとするデジタル技術は急速に進展しており、自治体においても、アイデアソンやハッカソンなど新たな手法を取り入れた行政改革が進められている。社会情勢が大きく変化する中、市役所自身がしっかり行政改革を進めなければ、将来にわたり持続可能で質の高い市民サービスを提供していくことは困難である。これまでの枠組みを改めて検証し、未来に向けた改革を着実に推進していく必要がある。

行政改革は、いずれの自治体においても容易なものではなく、自治体経営を取り巻く環境は一層厳しさを増している。時代と共に社会状況、経済状況は変化しており、国制度の動向も

気にしていかなければいけない。まちづくり構想福知山と行政改革大綱が歩調を合わせ、持続可能なまちづくりにつながる計画としていきたいと考えている。

変化の激しい時代の中で、本市の未来をどのように築いていくのか、市民が幸せを生きていくまちづくりをどのようにつくっていくのかが問われている。委員の皆様には、引き続き多角的な視点から御意見、御助言をいただきながら、福知山市の礎となる次期行政改革大綱をともに作り上げてまいりたい。

結びに、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げ、私からの冒頭の挨拶とする。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1 令和8年度委員及び事務局体制の紹介

市

事務局から本年度の行政改革推進委員の皆様の紹介をさせていただく。

【資料1】について説明

井上 拓 (いのうえ たく) 様
井上 直樹 (いのうえ なおき) 様
浦尾 たか子 (うらお たかこ) 様
岡 恵 (おか めぐみ) 様
細見 祐介 (ほそみ ゆうすけ) 様
村尾 慎哉 (むらお しんや) 様

福知山市職員については、事務局として市長公室及び総務部職員、今年度、次期のまちづくり構想や行政改革大綱の策定に向け、企画政策監が出席。

【資料2】について説明

2 委員長・副委員長の選出

市

事務局から、「資料3 福知山市行政改革推進委員会規則」第4条第1項に、「当委員会に委員長1人、副委員長1人を置き、委員の互選によってこれを定める」とある。

委員の皆様から委員長、副委員長について立候補、又は推薦はないか。

(→なし)

特に、立候補、推薦がなければ、事務局より提案させていただきたいが、よろしいか。

(→異議なし)

それでは、浦尾 たか子 委員に委員長を、井上 直樹 委員に副委員長をお願いできればと思うが、いかがか。

異議なければ、浦尾 たか子様、委員長の就任についてご了承いただけるか。

委員

はい。

市

井上 直樹 様、副委員長就任についてご了承いただけるか。

委員

はい。

市

浦尾委員長、一言ご挨拶をお願いします。

委員

令和 8 年度の行政改革推進委員会の委員長ということで、よろしくお願いします。

先ほど市長のお話にもあったように、福知山市民の皆さんが幸せを生きる、その礎・土台づくりとなるような大綱の作成に向けて、幅広い御見識の高い委員の皆様と、そして職員の皆さんとワンチームで作りに上げていきたいと思っている。どうぞよろしくお願いします。

市

浦尾様、井上様には大変お世話になるが、よろしくお願いします。

3 報告事項

・自治基本条例推進委員会の取組について

【資料4】について説明

委員

1点コメントと質問である。

まずコメントであるが、資料にも整理されているとおり、令和4年度から継続して自治基本条例推進委員会の取組、グループワークを積み重ねていただいていることが資料からも分かりやすく、昨年度の取組もよくわかった。

1点質問であるが、令和7年度の取組に関して、何か課題として振り返っておられる点や、お気づきになった点があれば補足いただきたい。

市

令和4年度から継続してきた「21 の提案」の協議が、今年度で全て完了した。

4つのテーマに分かれたグループワークを通じて、地域で実践可能な具体的なアクションプランまで踏み込んだ議論を行っていただいた。

課題としては、これからどうやって市民を巻き込んでいくか、その手段の検討が課題の一つであると考えている。

委員

関連して、その手段の検討という点は、次期まちづくり構想の検討の中にも要素やテーマとして組み込まれると捉えてよいか。

あるいは、実現手段の検討については別途行っていくのか、どのような形で課題に対処されるのか、現時点で検討されていることがあれば教えていただきたい。

市

現在、庁内検討委員会を立ち上げ、次期まちづくり構想の策定に向けた検討を行っている。その中で、今御意見いただいたことについても、これから検討を進めていきたいと考えている。現時点では具体的な内容までは決まっていないが、今後検討していきたいと思う。

委員

課題として挙げた点を大切にし、その課題に対処していくことこそが前へ進むことだと考える。ぜひ、取組を着実につなげ、継続していただきたい。

委員

資料を拝見したコメントであるが、市民の方が参画されていることから、実情に根差した課題と提案になっていると感じた。

また、具体化に向けた検討内容について、令和7年度の解決手段は共通している部分が多いのではないかと考える。例えば、「来る」に転換する場所や、移動式のサービスは、提案1から18まで共通した解決手段になっているように感じる。

個別の課題に見えながら、実は連関している部分もあると思うため、移動手段によるサービス提供などに予算が付くことで、実現に向けて分かりやすく進むのではないと思う。課題解決に向けて、具体的な取組に落とし込んでいただければと思う。

委員

出てきた課題を、いかに実践的に前に進め、課題解決していくかがポイントになると思う。

今指摘いただいたように、移動によるサービスなどをどう具体化していくかという点は大切であると思う。

・令和8年度当初予算について

【資料5】について説明

委員

先ほど資料4「自治基本条例推進委員会の取組について」4ページ、「7 令和7年度の主な取組について」を説明いただいたと思う。まちづくり講演会やグループワークの検討内容について、今後具体化していくという話があったと思う。

3月議会で承認された当初予算の中で、主な部分だけで結構であるため、その具体化に向けた予算がどのあたりに措置されているのか、簡単に教えていただきたい。

市

全てを説明することは難しいが、例えば提案1のサロンへの参加しやすいきっかけづくりについては、これまで地元の方にも負担いただいていた部分もあったが、地元負担がない形で進めるための予算を組ませていただいている。

また、地域公共交通の関係については、例年の予算措置という形にはなるが、地域公共交通に係る補助金等を措置していく。

委員

提案18「医療や介護をできる限り必要とせず、健康で生き生きと長生きする「健康長寿」をめざそう」という点についてはいかがか。

市

健康長寿の取組については、以前から進めているアクティブシティの取組が合致してくる部分と考えている。

23 ページに、アクティブシティ推進事業として予算措置をしている。従来のオリジナルアプリの継続に加え、アクティブシティ推進事業を実施する団体への補助などを行い、健康長寿の取組を進めていく予定である。

委員

42 ページ、43 ページの「持続可能な財政構造の堅持」について質問である。①財源確保の中で、ふるさと納税等の推進として、個人からのふるさと納税寄附金額が当初比4億円増とある。6億円から10億円になったということだと思うが、かなり大きな増加率だと感じる。

返礼品の開発や数を増やすと書かれているが、実現可能性についてどのように見込んでいるか。

市

令和7年度のふるさと納税寄附額については、6億円の予算に対して、実際には8億円を超える寄附をいただいている。

新たな課を設けるなど、力を入れて取り組んできたこともあり、順調に伸びてきている状況である。その点も踏まえ、8億円から10億円への上乗せを見込んでいる。無理な数字ではなく、目標として設定しているものである。

委員

令和7年度よりも令和8年度は、さらに返礼品の開発を進めていくということで了解した。

もう1点、43 ページ下段の地域包括支援センター運営で、PC端末の追加配置により1,440時間の縮減とあるが、これは1年間で1,440時間ということか。

市

はい。地域包括支援センターは各地域、中学校区単位にあるため、それぞれのセンターで少しずつ削減効果が積み重なり、全体で1,440時間という形になる。

委員

各支援センターでの削減が積み重なっているということで理解した。

もう1点、地方債の繰上償還による公債費の抑制については、令和7年度に前倒しで償還しているということか。令和8年度単体で見れば抑制であるが、令和7年度、8年度の2年間で見れば、本来2年間で償還すべきものを前倒ししているという理解でよいか。

市

はい、そのような形である。繰上償還を行うことで、利息の部分についても削減につながっている。

委員

令和8年度予算の概要を見せていただき、現行大綱の基本方針である「持続可能で質の高い行財政経営の確立」という大きな方針の中で、42 ページからの財政構造の堅持に関する資料などを拝見し、努力していただいていると感じた。

こうした予算の概要も含め、行政改革の取組や基本方針に立ち返りながら、相互に関連付けて考えていきたいと感じた。

委員

予算は、あるべき福知山を構築するために使われていくものだと思うが、この分厚い資料を見ても、少し強弱が分かりにくいと感じた。令和8年度予算の特徴を一言で教えていただきたい。

市

一言で申し上げるのは難しいが、経常的な経費が増えてきており、財政的には苦しい中ではあるが、物価高騰対策も含め、必要な投資についてはしっかり予算計上したものと考えている。今後のまちづくりにつながる予算と位置付けている。

委員

どこがまちづくりにつながる予算なのか、少し分かりにくかったので、教えていただきたい。

市

例えば、資料 35 ページの企業交流プラザの基本設計事業などは、今後の産業振興に関わるものであり、将来的な税収増にもつながる可能性がある。こうした将来に向けた投資に力を入れているところである。

委員

次の議事にもつながるところで質問である。

現行の行政改革大綱2022－2026にも、財政4指標の健全性が掲げられていると思う。今回の予算は必要なものではあると思うが、全会計で初めて 1,000 億円を超える大きな予算となっている。財政4指標の健全性について、どのように捉えているか、また我々が次期大綱でどのように向き合うべきなのか、見解があれば教えていただきたい。

市

財政4指標については、現在の行政改革大綱2022－2026にも位置付けてある。

まず、財源対策基金残高については、目標値を 40 億円から 45 億円と設定しているが、今回の予算を踏まえても達成可能と見込んでいる。

また、公共施設等総合管理基金への積立金についても、将来の更新に向けた積立金として、この期間での達成を見込んでいる。

一方で、経常経費の額については、前回の行政改革大綱策定時に、ここまでの物価高騰や人件費高騰を見込めなかった部分があった。経常経費が増える一方で、税収など一般財源も増えているため、そうした点も踏まえ、達成に相当するかどうかを整理していきたいと考えている。

委員

状況はよく理解した。

1点コメントであるが、41ページの公共施設マネジメントの推進が、今後大きく関わってくると思う。第2期の再配置方針も令和7年度に定められ、投資的経費について年間約 30 億円程度、歳出総額の8%を目安とすることが示されていると思う。

当初予算が大きくなっている中で、公共施設マネジメントをどのように着実に推進するかが、次期行政改革大綱を考える上でも一つの論点になると感じた。現状の予算について説明いただき、論点が少し浮き彫りになったと思う。

委員

次期大綱に向けての大きなポイントについて意見をいただいた。

4 議事

(1)次期行政改革大綱について

・次期行政改革大綱について【資料6】

【資料6】について説明

委員

資料6の「1. 次期行政改革大綱策定にあたって(事務局案)」の「(2)「福知山市行政改革大綱2022－2026」の総括を踏まえた大綱」という部分が一番重要であると思う。

現行の行政改革大綱 2022-2026 に基づいて5年間取り組んできたわけであるが、結果として具体的にどれだけ成果が出たのか、少し分かりにくいと感じている。その結果が次の大綱にどのように反映されるのかが重要であると思う。

総括を行う際には、各項目についてどのような成果が出たのかを客観的に示していただきたい。全ての取組はPDCAサイクルを回すことになると思うため、5年間で取り組んだ結果、どこに課題があったか、どこがうまくいったかを総括し、できなかったものについては、その原因までしっかり掘り下げていただきたい。

そこまで整理した上で次の大綱に生かしていかないと、これまで5年間取り組んできたことの効果が半減してしまうと思う。よろしく願います。

市

現在の進捗について報告する。

現時点では、指標の取りまとめを行っているところである。また、職員アンケートも実施しており、その結果を踏まえ、今いただいた意見を大切にしながら取組を進めていきたいと考える。

委員

現行の行政改革大綱2022－2026には、5年間の目標として指標が設定されているため、それに関して総括いただき、それを踏まえて次期大綱に反映していくという理解でよいか。次回の委員会あたりを一つのめどに、という理解でよろしいか。

市

そのように進めていきたいと考えている。

委員

「1. 次期行政改革大綱策定にあたって(事務局案)」の「(3) 社会経済情勢や環境の変化に対応した大綱」については、本当に激変している中で、これからの5年間でどう見るかが非常に重要であると思う。

世界全体、日本全体を含めて、どのような環境変化に対応していくのかという姿勢が、あらゆるものを考えていく土台になると思う。委員の皆様の専門性や幅広い知見の中で、何を大きく踏まえていく必要があるのか、この委員会でつなげていければと思う。

委員

スケジュールについて確認である。

資料2ページ目の「4. 大綱策定年間スケジュール(案)」についてである。答申及び策定のところであるが、今年度の計画では2月に答申を行い、その答申を踏まえて計画を策定していく流れかと思う。策定された結果を、この委員会で確認したり、読み合わせをしたりするのは、来年度になるのか。第5回まで予定されている時間の使い方について確認させていただきたい。

市

年度内には完成版をお渡しする予定であるが、スケジュールとしては、今ご意見いただいたような流れで進めたいと考えている。

委員

承知した。

2月に答申して、年度内に策定するという点は、かなりタイトだと感じた。ただ、徐々に案を作っていたことになると思うため、我々も最後がタイトであることを意識しながら、一つ一つ積み重ねていければと思う。年度内に計画を策定するという点は承知した。

委員

スケジュールは非常に大事なところだと思うため、8月の次回委員会を含めて、しっかり内容を進めていければと思う。

委員

コメントである。

行政改革大綱だけでなく、予算や計画を進めるときには、最初は非常に気合いが入って、あれもしたい、これもしたいという理想が高まった中で進んでいくものだと思う。その後、総括や課題整理を踏まえる中で、実現可能性などの論点が出てきて、尻すぼみになったり、本当に行えるのかと不安になったりすることも多いと思う。

ただ、そこは最後までやり抜くという気持ちで、この1年、全員がワンチームで取り組んでいく必要があると思う。委員長からもあったが、気持ちを切らさずに頑張っていきたいと思う。

委員

大変心強い意見をありがとうございます。

大綱ですので、大きく方向性を掲げ、ぶれないように進めていきたいと思う。

閉会

市

委員の皆様、本日は御審議いただきありがとうございました。

今年度は、次期行政改革大綱の策定に向けて、しっかり進めてまいりたいと考えている。今後とも委員の皆様の御意見をいただきながら行政改革の取組を進めてまいりますので、引き続き御指導のほどよろしくお願いする。

なお、次回委員会の開催については、改めて日程調整をさせていただく。

以上をもって、令和8年度第1回福知山市行政改革推進委員会を終了する。